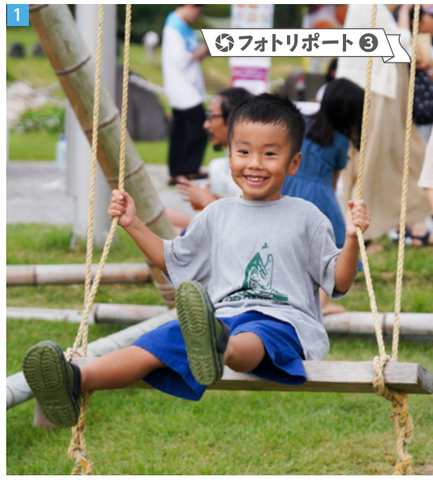
1_孔子の遺徳をしのぶ「祭孔大典」の踊り 2_牛乳早飲み大会 3_ステージではダンスやライブが披露された 4_花火の前には本市出身の歌手・れーなさんが登場 5_フィナーレを飾った約千発の花火 6_会場は大勢の人でにぎわった

第41回しすい孔子公園夏まつり

8月14日

泗水孔子公園で「しすい孔子公園夏まつり」がありました。新型コロナウイルス禍の中止を経て4年ぶりに開催。

ステージではダンスやライブ、牛乳早飲み大会などが行われ、会場は活気を見せました。祭りの最後には約千発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を鮮やかに彩りました。



1_手作りした竹の巨大ブランコは大人気 2_夜に開催され、多くの人が来場 3_ステージを盛り上げたダンスパフォーマンス 4_ダムのおなか探検では普段入れない内部を公開

竜門ダムフェスタ

9月16日

竜門ダムフェスタが竜門ダムエントランス広場で行われました。周辺住民でつくる斑蛇口湖活性化推進協議会が主催。地域に明かりをともしたいと、昨年から夜市形式で開催しています。

ステージではダンスや太鼓のパフォーマンスなどが披露され、多くの人たちでにぎわいました。

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報きくち9月・10月で各部門の最優秀作文を紹介します。

中学生の部最優秀作文

犯罪や非行をした人の立ち直りについて

菊池南中学校3年　茂田幸穏（しげたこのん）さん

私は今まで、犯罪を犯した人は、絶対に立ち直れないと思っていました。でも最近になって、犯罪を犯してしまった人たちも立ち直ることができるのだと考えるようになりました。きっかけは、あるドキュメンタリー番組を見たことです。

その番組は、薬物を乱用したり暴行したり人をだましたりしている非行少年・少女たちを、犯罪を犯し刑務所に収容されている大人たちと実際に合わせ、刑務所の暮らしを経験させ、更生させるという内容のものでした。

最初は、「どうせ無理だろう」「無駄なことだ」とばかり思っていました。心のどこかで同じ人間であるはずの人たちを軽蔑していたのだと思います。しかし、番組を見ているうちに、その子どもたちの過去や思い、変わっていく姿などを見て、私の考えは間違っているのではないかと思うようになりました。

そして、番組を見終わった時、私の考えは変わっていました。犯罪を犯した人、非行少年・少女も、立ち直りやり直すことができると思ったのです。立ち直ることができない人がいるのは、以前の私のように考える人が多いからではないかと思います。

自分の犯した罪を反省し、次に生かそうとしていても、周囲の人や社会がそれを許してくれない。そうなると、当然犯罪を犯した人が、やり直そう、立ち直ろうとしても、二度と立ち直ることはできないのではないでしょうか。

考えを変えたもう一つのきっかけは、その番組で、少年少女を更生させるために使われたたくさんの大人たちの言葉です。その言葉は、社会への恨み言や悪口ではなく、子どもたちを思った言葉、厳しい忠告、「自分たちのようになるな」「まだやり直せる」といったものでした。

実際に経験している人の言葉には重みがあり、子どもたちの態度や考えを変える一番の理由になっていました。私は、この人たちも反省しているんだと心の底から思いました。

人が立ち直るためには、一人では難しく、周りの理解や支えてあげる人の存在が必要だと思います。そう考えた時、私は小学生の時のある出来事を思い出しました。

小学4年生になって宿題を出すようになるなど、生活態度の改善が見られたクラスメイトに、クラスの子が「なんや去年までは出してなかったのに、イキってるでしょう」と言ったことです。私もその言葉を聞き、そう思った自分がいました。その時、先生が「変わろうとしている子の邪魔をしてはいけない」と言われましたが、当時はその言葉の意味が本当にはわかっていませんでした。

私はこれから出会う人を、過去や噂で決めつけたりせず、しっかり向き合っていこうと思います。